

産科・婦人科

巽 啓司

当院産科は、大阪府周産期搬送ネットワーク（OGCS）加盟施設として、産科救急受け入れ施設となっている。NICUの併設がなく早産や胎児疾患には対応できないが、年々受け入れは増加している。産科合併症は経過が急で、母体・胎児に重篤な異常をきたすことも多い。また様々な合併症をもつ妊婦も増加しており、非妊娠とは異なる病像を呈したり妊娠経過に重大な影響を与えたりすることがあるため、該当診療科と連携して管理している。近年、出生率の低下とともに妊娠出産年齢の高齢化等により、いわゆるハイリスク妊娠の割合は増加の一途をたどっている。当院でもこの傾向は顕著であるが、ハイリスク妊娠の管理に際しては、胎児心拍モニタリング、超音波断層法、パルスドップラー法等により、間接的にはあるが子宮内の胎児の状態を把握し、必要な場合には遅滞なく介入を行う一方、異常なく経過している妊産婦はもちろん、様々な合併症をもった妊娠でも、できるだけ自然なお産を体験してもらえよう努力している。このように、新しい知識・技術を駆使して症例に応じた個別で適切なリスク管理を行うことを通じて、より適正な診療体系を作っていくことが当科の基本目標である。また当科の特徴としては、AIDS診療拠点病院としてHIV/AIDS合併妊娠の管理にも積極的に取り組んでいる。

当院の婦人科診療の中心は「がん」であり、入院患者の多くは悪性腫瘍患者である。また大阪における子宮がん治療の草分けとして出発・発展し、全国でも屈指の婦人科がん治療施設として、世界婦人科連合（FIGO）の悪性腫瘍登録施設（わが国では5施設）に選ばれていた。また日本産科婦人科学会婦人科腫瘍登録を通じて、わが国における婦人科腫瘍診療の発展に貢献している。さらに、「がん患者の妊孕能や日常生活機能の温存」、「進行がん患者に対する化学療法を含めた集学的治療の効果」などを当面の課題として、手術術式の改良、手術適応の見直し、最適な補助療法の組み合わせの検討等を進めており、各種学会での演題発表や論文作成を通じて、その成果を順次公表している。一方、子宮筋腫や卵巣嚢腫等の良性疾患も多数取り扱っている。腹腔鏡下手術や子宮鏡下手術も積極的に取り入れ、術後後遺症の最少化、必要な機能の温存を考慮しながら、年齢や生活環境なども含めた個々の症例に応じた適切な治療法を提案し実施している。また、大阪府婦人科救急ネットワークの受け入れ施設として、可能な限り婦人科救急にも対応している。

当科は新専門医制度において、京都大学、近畿大学と連携した産婦人科専門医指導施設であり、日本婦人科腫瘍学会、日本周産期新生児医学会、日本女性医学会等の専門医研修施設として、若手医師の指導・育成を行っており、全国の医療施設で中心となって活躍している多数の専門医を輩出してきた。また各種臨床試験にも積極的に参加し、新たな治療法の創出に貢献している。

【2016年度 研究発表業績】

A-0

Sakai M, Abiko K, Matsumura N, Kondoh E, Yamaguchi K, Minamiguchi S, Kurata Y, Kido A, Konishi I : Two cases of wolffian tumor with novel magnetic resonance imaging findings reflecting characteristic

pathology. 「The journal of obstetrics and Gynecology」 Research, 42(8):P1046-51, 2016年8月1日

Takahashi Y, Yamanishi Y, Nobuta Y, Okada Y, Amano Y, Ichiba N, Aoki E, Mogami H, Konishi I: An evaluation of asymptomatic fallopian tubal ectopic pregnancies by magnetic resonance imaging. 「日本産科婦人科内視鏡学会雑誌」 Vol32, P201-207, 2016年11月1日

Matsumoto H, Sato Y, Horie A, Suginami K, Tani H, Hattori A, Araki Y, Kagami K, Konishi I, Fujiwara H: CD9 suppresses human extravillous trophoblast invasion. 「PLACENTA」 第 47 卷, P105-112, 2016年 11 月 1 日

Suginami K, Sato Y, Horie A, Matsumoto H, Kyo S, Araki Y, Konishi I, Fujiwara H: Platelets are a possible regulator of human endometrial re-epithelialization during menstruation. 「American Journal of Reproductive Immunology」 Volume77, Issue1, 2017年 1 月 10 日

A-3

巽 啓司: 卵巣がんのリスク因子と発生頻度 特集/若い世代から増えている女性のがん。月刊「臨床と研究」Vol.93 No.6: P.843-847、大道學館出版部、2016年6月20日

岡垣篤彦: 災害、救急医療と医療情報 3-F-1ワークショップ「医療情報学」P.222-225、Vol36 (Suppl.)、2016年11月1日

B-1

Okagaki A: Electronic Medical Record For Emergency medicine. FileMaker Developer Conference 2016, Las Vegas Nevada USA、2016年 7 月 20 日

B-4

松本久宣、藤上友輔、矢口愛弓、渡辺美恵、寺田亜希子、赤木佳奈、木田尚子、伴 建二、岡垣篤彦、巽 啓司: CTおよびFDG-PETにて多発リンパ節腫大を指摘され卵巣境界悪性腫瘍再発を疑った Castleman 病の 1 例。第 68 回日本産科婦人科学会学術講演会、東京、2016年 4 月 23 日

藤上友輔、伴 建二、矢口愛弓、渡辺美恵、木田尚子、赤木佳奈、松本久宣、岡垣篤彦、巽 啓司: 当科で子宮頸部腺癌に対して初回手術を行った 21 症例の検討。第 68 回日本産科婦人科学会学術講演会、東京、2016年 4 月 24 日

岡垣篤彦、上尾光弘、定光大海: 病院情報システムのデータから大規模災害時用 ID の妥当性を検証する。第 20 回医療情報学会春季学術大会、松江、2016年 6 月 4 日

松本久宣、藤上友輔、矢口愛弓、渡辺美恵、寺田亜希子、赤木佳奈、木田尚子、伴 建二、岡垣篤彦、巽 啓司: 当院で ETP+CDDP(EP)療法を施行した子宮頸部小細胞癌の 3 症例。第 58 回日本婦人科腫瘍学会学術講演会、米子、2016年 7 月 9 日

伴 建二、松本久宣、赤木佳奈、岡田由貴子、岡垣篤彦、巽 啓司、森 清: 未分化癌から

なる壁在結節を伴う卵巣粘液性境界悪性腫瘍 I A 期の 1 例。第 58 回日本婦人科腫瘍学会学術講演会、米子、2016 年 7 月 9 日

山西優紀夫、岡田由貴子、澤山咲輝、信田侑里、佐竹由美子、高橋良樹、天野泰彰：広間膜内巨大子宮筋腫合併により子宮下垂を認めなかった骨盤臓器脱の 1 例（当科における手術方法）。第 56 回日本産科婦人科内視鏡学会学術講習会、長崎、2016 年 9 月 3 日

山西優紀夫、岡田由貴子、澤山咲輝、信田侑里、佐竹由美子、高橋良樹、天野泰彰：腹腔鏡下手術を施行した子宮漿膜下筋腫捻転の 2 例。第 56 回日本産科婦人科内視鏡学会学術講習会、長崎、2016 年 9 月 1 日～3 日

信田侑里、岡田由貴子、澤山咲輝、佐竹由美子、山西優紀夫、高橋良樹、天野泰彰：当院の卵管妊娠に対する vasopression methotrexate 併用腹腔鏡下卵管温存手術に関する検討。第 56 回日本産科婦人科内視鏡学会学術講習会、長崎、2016 年 9 月 1 日～3 日

岡垣篤彦：電子カルテに何を入れるのか。第 35 回医療情報学連合大会、宮崎、2016 年 10 月 15 日

松本久宣、藤上友輔、酒井美恵、矢口愛弓、赤木佳奈、伴建二、岡垣篤彦、巽啓司：G-CSF 産生を伴う子宮頸部扁平上皮癌の 1 例。第 70 回国立病院総合医学会、宜野湾市、2016 年 11 月 12 日

伴建二、藤上友輔、酒井美恵、矢口愛弓、赤木佳奈、松本久宣、岡垣篤彦、巽啓司：乳腺転移をきたした卵巣癌 IVB 期の 1 例。第 70 回国立病院総合医学会、宜野湾市、2016 年 11 月 12 日

B-5

岡垣篤彦：災害・救急医療へのユーザーメード IT の貢献。第 2 回山陰文化権医療情報技師研究会、松江、2016 年 7 月 9 日

岡垣篤彦：ユーザーメードの入力ツール。日本医療情報学会関西支部第 1 回講演会・関西医療情報処理懇談会・関西医療情報技師会 合同公演会、大阪、2016 年 10 月 1 日

藤上友輔、松本久宣、矢口愛弓、酒井美恵、寺田亜希子、伴建二、岡田由貴子、岡垣篤彦、巽啓司：子宮頸癌に伴う子宮留膿症で経皮的ドレナージが有効だった 1 例。第 31 回大阪温知会総会、大阪、平成 29 年 2 月 25 日

B-8

巽啓司：周産期医療体制の確保に向けて。平成 28 年度「家族計画・母体保護法指導者講習会」伝達講習会、大阪、2017 年 1 月 12 日